

人間科学専攻

—学位授与・教育課程編成・入学者受入れの方針—

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【学位の前提となる教育理念】

人間科学専攻は、人間の諸行動や諸活動について高度な教育と研究を行い、理論と実践の両面から専門性を深め、研究を通して社会に貢献する人材を育成することを目的としています。本専攻では、教育学・人間学コース、心理学コースの2コースが連携して、哲学・思想、教育学、心理学、音楽、身体文化学等の研究を通して専門性を深め、教育や支援の現場における実践や応用の視座も有しながら、人間の存在と形成、行動について広い視野から深く総合的に学びます。

【身につけるべき力】

- ・社会や人間のあり方そのものを自覚的に問い直すための課題発見力と高度な分析力
- ・新しい社会と文化を構想し実現する創造的で実践的な行動力
- ・他者と協働して問題解決にあたるためのリーダーシップ

【学位授与の要件】

上記の資質・能力を身につけ、所定の期間在学して所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえで修士論文の審査に合格した学生に修士（文学、学術のいずれか）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【基本的なカリキュラム構造】

学生は履修系列として、高度な専門的能力を養成する専修系、広い視野を備えた多様なタイプの優秀な人材を育成する複合系のどちらかを選択し、以下の科目群から履修します。教養科目群では大学院生に必要な教養を培います。専門群では特論、演習、実習を通して高度な専門教育を行います。実践群及びキャリア形成群では高度な職業能力を開発するための実践的教育を行います。論文等作成群では修士論文の執筆に向けて指導を行います。

【教育の内容と方法】

本専攻では、資料の分析、フィールドワーク、調査・実験等を遂行することを通して、主体的行動力、課題発見力、分析力を身につけることを重視します。また学際的な視野からものごとを俯瞰する

能力、実社会で必要とされる企画・調整力及び他者と協働する力を培うための大学院教養科目を必修としています。さらに文学部からの6年一貫教育プログラムでは、学部から修士論文作成まで継続的に研究を行い質の高い修士論文を目指すとともに、留学など学外での学修を自ら柔軟に設計することが可能です。

【学修成果の評価】

学修成果の評価は、それぞれの開講科目のシラバスに示された成績評価の方法（定期試験、レポート、授業での発表等）に従い、公正かつ厳格に行います。修士論文は、提出された論文と口頭試問により評価します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

【教育理念】

人間科学専攻は、哲学・思想、教育学、心理学、音楽教育学、身体文化学等の研究を通して、人間と人間の行動について広い視野から深く学ぶことを目的としています。教育学・人間学コースでは人間形成と人間存在に関わる幅広い事象について高度な専門教育と研究を行います。心理学コースでは人間の心と行動そして人間関係について、理論と実践の両方を視野に入れて高度な専門教育と研究を行います。

【求める学生像】

上記の教育理念にもとづき、次のような資質と能力を有する学生を求めます。

- 専門分野に関する基礎的知識
- 資料や文献を読み解くための語学力
- 資料の分析、実験や観察、フィールド調査などの研究方法に関する知識と能力
- 調査結果や文献などを適切に分析し、論理的に説明する能力
- 大学での学修・研究を基盤とした明確な研究展望
- 社会生活に根ざした真摯な問題意識
- 大学院における研究を社会に還元する意欲

【入学者選抜の基本方針】

コースごとに、一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜、6年一貫教育プログラム特別選抜を実施します。大学院で学ぶために必要な専門知識や研究を計画し実施する能力を測るために、筆記試験と口述試験を行って選抜します。

(人間科学専攻 教育・人間学コース)

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【学位の前提となる教育理念】

教育学・人間学コースは、人間形成と人間存在に関わる哲学・思想、教育学、音楽教育学、身体文化学の高度な教育と研究を行い、批判的で独創的な探究を通して、新しい社会と文化の創造に貢献できる人材の育成を目的としています。人間の営みとあり方について原理的に問い、課題を発見し、他者と協働しながら現代社会の諸問題を解決していく力の養成を目指します。

【身につけるべき力】

- ・社会や人間のあり方を問い直すための課題発見力と高度な分析力
- ・新しい社会と文化を構想するための広い視野からものごとを俯瞰する能力
- ・他者と協働して問題解決にあたるためのコミュニケーション能力

【学位授与の要件】

上記の資質・能力を身につけ、所定の期間在学して所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえで修士論文の審査に合格した学生に修士（文学、学術のいずれか）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【基本的なカリキュラム構造】

学生は履修系列として、高度な専門的能力を養成する専修系、広い視野を備えた多様なタイプの優秀な人材を育成する複合系のどちらかを選択し、以下の科目群から履修します。教養科目群では大学院生に必要な教養を培います。専門群では哲学・思想、教育学、音楽教育学、身体文化学に関する特論、演習を通して高度な専門教育を行います。キャリア形成群では高度な職業能力を開発するための教育を行います。論文等作成群では修士論文の執筆に向けて指導を行います。

【教育の内容と方法】

教育学・人間学コースでは、文献や資料の精緻な読解や観察・インタビュー・アンケート等の調査研究を通して、人間の営みやあり方に関する課題発見力や高度の分析力を身につけることを重視します。また学際的な視野からものごとを俯瞰する能力、実社会で必要とされる企画・調整力及び他者と協働する力を培うための大学院教養科目を必修としています。さらに文学部からの6年一貫教育プログラムでは、学部から修士論文作成まで継続的に研究を行い質の高い修士論文を目指すとともに、資料調査や留学など学外での学修を自ら柔軟に設計することが可能です。

【学修成果の評価】

学修成果の評価は、それぞれの開講科目のシラバスに示された成績評価の方法（定期試験、レポート、授業での発表等）に従い、公正かつ厳格に行います。修士論文は、提出された論文と口頭試問により評価します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

【教育理念】

教育学・人間学コースは、哲学・思想、教育学、音楽教育学、身体文化学の研究を通して、人間形成と人間存在に関わる幅広い事象について広い視野から深く学ぶことを目的としています。本コースでは、文献資料による理論的研究、観察・インタビュー・アンケート等の調査による実証的研究など、多様な研究方法を批判的に吟味しつつ活用します。現代社会における様々な人間の営みについて生き生きとした関心を持ち、その問題点を原理的に探究するとともに創造的に克服していく、高度な専門的能力を身につけた学生を育てます。

【求める学生像】

上記の教育理念にもとづき、次のような資質と能力を有する学生を求めます。

- 哲学・思想、教育学、音楽教育学、身体文化学に関する基礎的知識
- 資料や文献を読み解くための言語能力
- 調査結果や文献などを適切に分析し、論理的に説明する能力
- 大学での学修・研究を基盤とした明確な研究展望
- 社会生活に根ざした真摯な問題意識
- 大学院における研究を社会に還元する意欲

【入学者選抜の基本方針】

教育学・人間学コースで学ぶ上で必要とされる専門分野（哲学・思想、教育学、音楽教育学、身体文化学のいずれか）の学力を、筆記試験と口述試験に基づき評価します。

一般選抜

筆記試験では、専門科目（哲学・思想、教育学、音楽教育学、身体文化学のいずれかを選択）と外国語科目（英語）を課し、専門分野に関する基礎的知識、論述力、外国語読解力を評価します。口述試験では、志望動機、研究計画、表現力を評価します。

社会人特別選抜

筆記試験では、専門科目（哲学・思想、教育学、音楽教育学、身体文化学のいずれかを選択）を課し、専門分野に関する基礎的知識、論述力を評価します。口述試験では、志望動機、研究計画、表現

力を評価します。

外国人留学生特別選抜

筆記試験では、専門科目（哲学・思想、教育学、音楽教育学、身体文化学のいずれかを選択）を課し、専門分野に関する基礎的知識、論述力を評価します。口述試験では、志望動機、研究計画、日本語でのコミュニケーション能力を評価します。

6年一貫教育プログラム特別選抜

書類審査により、6年一貫教育プログラムのもとで行われた調査・研究状況、今後の研究展望、主体的に学ぼうとする意欲を評価します。

(人間科学専攻 心理学コース)

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【学位の前提となる教育理念】

心理学コースは、心理、行動、人間関係、発達、そして、それらにおける様々な困難と支援について、高度な専門教育と実証的研究を行います。哲学、倫理学、教育学、身体文化学と基本的理念を共有しつつ、心理学による教育、医療・保健、社会福祉における実践や応用、あるいは、文化や産業における価値創造や技術革新の視座も有しながら、人間と社会の現実から課題を発見し、その解決に向けた科学的認識または臨床実践のための実証的研究を行います。それらを通して深く総合的に学び、論理的思考力と規範的判断力を基盤として、理論と実践の両面において探究や応用への姿勢・態度及び技能・構想力・実践力を養います。そして、研究員、高度専門職業人または公認心理師や臨床発達心理士として、心理学にもとづく展望、研究や評価、開発・工夫、計画、遂行や実践を通して、他者と対話・協働しながら、研究、教育、医療・保健、社会福祉、地域社会、司法・矯正、産業、文化等におけるそれぞれの現場をリードし、社会に貢献する人材を育成します。

【身につけるべき力】

- 心理学的な見地から、社会や人間のあり方を自覚的に問い直すための課題発見、分析、実証、実践における姿勢、態度、知識、技能
- 新しい社会と文化を構想し、福利厚生を実現する、探究的または創造的で実践的な行動力
- 心理学的な専門性において、他者と対話・協働して、問題解決にあたるための分散型リーダーシップ

【学位授与の要件】

上記の資質・能力を身につけ、所定の期間在学して所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえで修士論文の審査に合格した学生に修士（文学、学術のいずれか）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【基本的なカリキュラム構造】

学生は履修系列として、高度な専門的能力を養成する専修系、広い視野を備えた多様なタイプの優秀な人材を育成する複合系のどちらかを選択し、以下の科目群から履修します。複合系としてはまた、心身健康学専攻臨床心理学コースとの連携による、公認心理師養成課程を履修することもできます。まず、教養科目群では、大学院生に必要な教養を培います。そして、専門群では、心理学に関する特論、演習、実習を通して高度な専門教育を行います。また、実践群及びキャリア形成群では、高度な

職業能力を開発するための実践的教育を行います。論文等作成群では、心理学の基礎的知見、支援、あるいは、臨床実践についての観察、調査、実験による実証的研究が求められる修士論文の執筆に向けて、国内外の論文読解、研究計画、研究結果に対する質的かつ／または量的な分析、討論、論文の書き方等の指導を行います。公認心理師養成課程では、これらに加えて、学内外での実習を行います。

【教育の内容と方法】

心理学コースでは、心理学における国内外の研究論文の読解、課題発見、研究計画、観察や調査や実験、KJ法やグラウンデッド・セオリー・アプローチ等の質的データ分析かつ／または多変量解析等の量的データ分析、討論、論文執筆、研究発表を遂行することを通して、主体的行動力、課題発見力、分析力を身につけることを重視します。そのうえで、公認心理師養成課程においては、各応用・臨床分野における理論と支援の展開についての科目履修と学内外の機関での心理実践実習が求められます。また学際的な視野から物事を俯瞰する能力、実社会で必要とされる企画・調整力及び他者と協働する力を培うための、大学院教養科目を必修としています。さらに文学部からの6年一貫プログラムでは、学部から修士論文作成まで継続的に研究を行い質の高い修士論文を目指すとともに、留学などが学外での学修を自ら柔軟に設計することが可能です。

【学修成果の評価】

学修成果の評価は、それぞれの開講科目のシラバスに示された成績評価の方法（定期試験、レポート、授業での発表等）に従い、公正かつ厳格に行います。修士論文は、提出された論文と口頭試問により評価します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

【教育理念】

心理学コースは、人間科学諸分野と連携し、人間の心と行動そして人間関係について理論と実践の両方を視野に入れて、高度な専門教育と研究を行います。コースの学生は、人間と社会の現実を見据えた規範的判断力と論理的思考そして高度な専門知識の学修に基づいて、観察、面接、質問紙、あるいは、実験による研究を自身で主体的・対話的に行います。それを通して、心理学における分析力、構想力、検証力、活用力、実践力を養います。選択履修可能な公認心理師養成課程もあります。基礎学術、応用、産業等における研究者、企業、行政、文化等における高度専門職業人、あるいは、教育、医療・保健、社会福祉、司法・矯正等における高度専門職業人として、他者と対話・協働しながら現場をリードする人材を育成します。

【求める学生像】

上記の教育理念にもとづき、次のような資質と能力を有する学生を求めます。

- 心理学分野に関する基礎的知識
- 心理学における海外学術誌の研究論文を読み解くための英語の読解力

- ・フィールド観察、面接調査、質問紙調査、実験などの研究方法と心理統計学の基礎に関する知識と能力
- ・観察、調査、実験の結果や文献などを適切に分析し、論理的に説明する能力
- ・大学での学修・研究を基盤とした明確な研究展望
- ・社会生活に根差した真摯な問題意識と対話的協働性
- ・大学院における研究を社会に還元する意欲

【入学者選抜の基本方針】

一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜、6年一貫教育プログラム特別選抜を実施します。大学院の心理学コースでより高度な心理学を学ぶために必要な、専門知識と研究能力を測るための筆記試験と口述試験をそれぞれ個別に行って選抜します。

一般選抜

筆記試験では、心理学の英語文献の読解力、心理学の研究法と統計法の基礎的な知識と論理的思考力、心理学の諸概念や用語についての基礎的知識を評価します。口述試験では、出願書類に基づいて質疑を行い、志望理由、学習意欲、将来展望、研究計画、論理的思考力、規範的判断力、対話的コミュニケーション能力を評価します。

社会人特別選抜

筆記試験では、心理学の英語文献の読解力、実社会の問題や課題とその解決への心理学的な観察力・思考力・論述力、心理学の諸概念や用語についての基礎的知識を評価します。口述試験では、出願書類に基づいて質疑を行い、志望理由、学習意欲、将来展望、研究計画、論理的思考力、規範的判断力、対話的コミュニケーション能力を評価します。

外国人留学生特別選抜

筆記試験では、心理学の英語文献の読解力、心理学の研究法と統計法の基礎的な知識と論理的思考力、心理学の諸概念や用語についての基礎的知識を評価します。口述試験では、出願書類に基づいて質疑を行い、志望理由、学習意欲、将来展望、研究計画、論理的思考力、規範的判断力、対話的コミュニケーション能力を評価します。

6年一貫教育プログラム特別選抜

書類審査により、6年一貫教育プログラムのもとで行われた調査・研究状況、今後の研究展望、主体的に学ぼうとする意欲を評価します。